

山梨県東八代郡豊富村

横畠遺跡

YOKOBATAKE SITE

村道ふるさと農道大鳥居線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1998

豊富村

豊富村教育委員会

山梨県東八代郡豊富村

横畠遺跡

YOKOBATAKE SITE

村道ふるさと農道大鳥居線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1998

豊富村

豊富村教育委員会

序

山梨県東八代郡豊富村は南側は御坂山塊の山々が連なり、村の北側には笛吹川が流れ、丘陵地から八ヶ岳や南アルプスが一望できる。まことに自然あふれる村であります。

21世紀を目前とした現在、豊富村では21世紀に対応した村づくりを“パストラル・シティ（田園都市）豊富”を合言葉にして、「豊富村第2次総合計画」が策定されました。これは産業の活性化を促し、農村と都市の融合を図り、快適な生活空間の創出を目指すものであります。その具体的事業にシルクの里公園建設やシルクラインの建設、笛吹川沿いの国道140号線に本村の情報の発信源として期待される交流促進センターの建設など地域活性化促進のため、着々と計画を実現しています。今回の発掘調査をするきっかけとなった「ふるさと農道大鳥居線」建設も県道甲府・玉穂・中道線からシルクの里公園へのアクセス道路であり、沿道の各集落を結ぶ主要な道路として今後大いに期待されるものであります。

今回の横畠遺跡の調査では、曾根丘陵では珍しい戦国時代の遺跡が発見され、当時の生活用具も出土して大いなる成果をあげました。戦国時代の甲斐国といえば、山梨の誇りである武田信玄公が有名であり、全国の武将が群雄割拠し、躍動感あふれる時代であります。横畠遺跡はその戦国時代が終わったころの遺跡であり、次の新しい時代への幕開けに私たちの祖先が生活していた痕跡を残す遺跡であります。そのように考えてみると、現在私たちは21世紀を迎えようとしており、時代の変革期にこのような調査を行ったのは単なる偶然ではなく、過去からのメッセージと受け止めたいと思います。

末筆ながら、ご指導・ご協力をいただいた地元大鳥居区の皆様をはじめ、関係各位に厚く御礼申し上げるとともに、本報告書が多くの方々により活用され、ふるさとを見直す一助となれば幸甚です。

1998年3月31日

豊富村長 萩原 幸男

例　　言

1. 本書は山梨県東八代郡豊富村大鳥居字横畠に所在する「横畠遺跡」の発掘調査報告書である。
2. 本調査は村道ふるさと農道大鳥居線建設に伴うものである。
3. 発掘調査及び出土品の整理は豊富村教育委員会が実施した。
4. 本書における出土品及び記録図面・写真は豊富村教育委員会が保管している。
5. 本報告書の執筆・編集・写真撮影は岡野が行った。
6. 本調査にあたり、山梨県教育庁学術文化財課及び豊富村大鳥居区の住民の皆様に御指導・御理解をいただきながら調査を進めることができた。心から謝意を表する次第である。
7. 発掘調査・出土品の整理及び報告書の作成については、次の方々から御協力・御教示を賜った。記して謝意を表する次第である。

(敬称略)

小野正文・出月洋文・森原明廣・中山誠二（山梨県教育庁学術文化財課）、田代孝・保坂康夫（山梨県埋蔵文化財センター）、林部光（中道町教育委員会）、野崎進（境川村教育委員会）、伊藤修二（八代町教育委員会）、望月和幸（御坂町教育委員会）、小瀬忠秋（御坂町教育委員会）、瀬田正明（一宮町教育委員会）、平塚洋一・佐々木満・志村憲一（甲府教育委員会）、櫛原功一（帝京大学山梨文化財研究所）

調　　査　組　織

調査主体	豊富村教育委員会
調査担当者	岡野秀典
調査事務局	荻原保正（教育長）・中込清彦（教育課長）・今井賢（教育係長）・井上妙・柿嶋正宣・中橋紀男・井上陽子
調査・整理	相原ツネ子・有泉つや子・有泉ふくじ・石原喜代の・石原次代・長田長美・長田晴美・河野紀久代・小林英子・小林芳次・桜井里子・桜井幸子・高野萬千子・塙田よ志江・土橋章夫・中沢浦子・荻原定子・荻原まつえ・村松俊江・山口喜代・渡辺きく江
参加者 (敬称略)	

目 次

序

例言

目次

第1章 調査に至る経緯及び調査方法	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査方法及び基本層序	1
第2章 地理的歴史的環境	4
第3章 検出された遺構と遺物	6
第1節 A区の遺構と遺物	6
第2節 B区の遺構と遺物	6
第3節 C区の遺構と遺物	14
第4章 まとめ	32
引用・参考文献	34
報告書抄録	

挿 図 目 次

第1図 調査区位置図・全体図	2	第11図 B区平面図・断面図(5)	11
第2図 A区全体図	3	第12図 C区平面図・断面図(1)	17
第3図 B区全体図	3	第13図 C区平面図・断面図(2)	19
第4図 C区全体図	3	第14図 C区平面図・断面図(3)	21
第5図 周辺遺跡分布図	5	第15図 C区平面図・断面図(4)	23
第6図 A区平面図・断面図	7	第16図 C区平面図・断面図(5)	25
第7図 B区平面図・断面図(1)	7	第17図 出土遺物(1)	28
第8図 B区平面図・断面図(2)	9	第18図 出土遺物(2)	29
第9図 B区平面図・断面図(3)	11	第19図 出土遺物(3)	30
第10図 B区平面図・断面図(4)	11	第20図 出土遺物(4)	31

写 真 図 版

図版 1 A区調査前風景 B・C区調査前風景

図版 2 A区全景（西から） B区全景（東から） B区全景（西から）

図版 3 B-15・16付近 1～2号住居址

図版 4 B-13・14付近 1号竪穴状遺構

- 図版5 B-12・13付近 4~7号土坑
- 図版6 8~9号土坑 11号土坑
- 図版7 C区全景(東から) C区作業風景
- 図版8 1号埋甕 2号竪穴状遺構
- 図版9 13号土坑 14~17号土坑
- 図版10 21~26号土坑 28号土坑
- 図版11 E-10・11付近 32号土坑
- 図版12 1号竪穴状遺構出土繩文土器 B区II層出土繩文土器
- 図版13 8号土坑出土擂鉢 3号竪穴状遺構出土溶融物付着土器
30号土坑出土脚付土師質皿 C区II層出土溶融物付着土器
C区II層出土「宋通元寶」

第1章 調査に至る経緯及び調査方法

第1節 調査に至る経緯

横畠遺跡は山梨県東八代郡豊富村大鳥居字横畠他に所在し、御坂山塊から舌状に飛び出した台地上に広く立地するが、調査地は遺跡の最も奥部で、山地と台地の平坦面の接する部分である。

今回の調査は県道甲府・玉穂・中道線からシルクの里公園へのアクセス道路であり、また集落間を結ぶための村道ふるさと農道大鳥居線建設に伴うもので、豊富村教育委員会が調査主体となり、平成8年度及び9年度に試掘調査を行ったその成果を生かしながら調査区を設定し、本調査を実施した。

平成9年（1997）10月13日 発掘調査を開始

平成9年（1997）11月4日 文化庁に発掘報告を提出

平成9年（1997）12月5日 発掘調査を終了

平成9年（1997）12月10日 南甲府警察署に遺物の発見通知を提出

第2節 調査方法及び基本層序

調査区の設定は調査地内にあるT字路を呈する道路の左側をA区、道路の北側をB区、道路の南側をC区と名づけて設定し、一辺5mのグリッド方式により調査を進めた。グリッドは平成9年度の試掘調査地も範囲内になるよう設定し、南北の軸をアルファベット（北から南へA・B・C…）、東西の軸を算用数字（西から東へ1・2・3…）を用いて表記した。

調査方法は重機で造構確認面としたローム面まで掘り下げた。その結果、A～C区において縄文時代中期後半の住居址が2軒、同時期の屋外埋甕が1基、中近世の竪穴状造構が4基、土坑が33基、小穴が61基検出した。調査面積は全体で465m²である。

また基本層序について、試掘調査時においては耕作土を1層としたが、本調査時では土層をよく観察すると、耕作土上部の表土的な褐色土が確認でき、今回はこれをI層とし、ローム面までの耕作土と思われる褐色土をII層とし、黄褐色ロームをIII層とする。地表よりローム面までの深さはA区は40cm、B区は30cm、C区は50～60cm程度である。

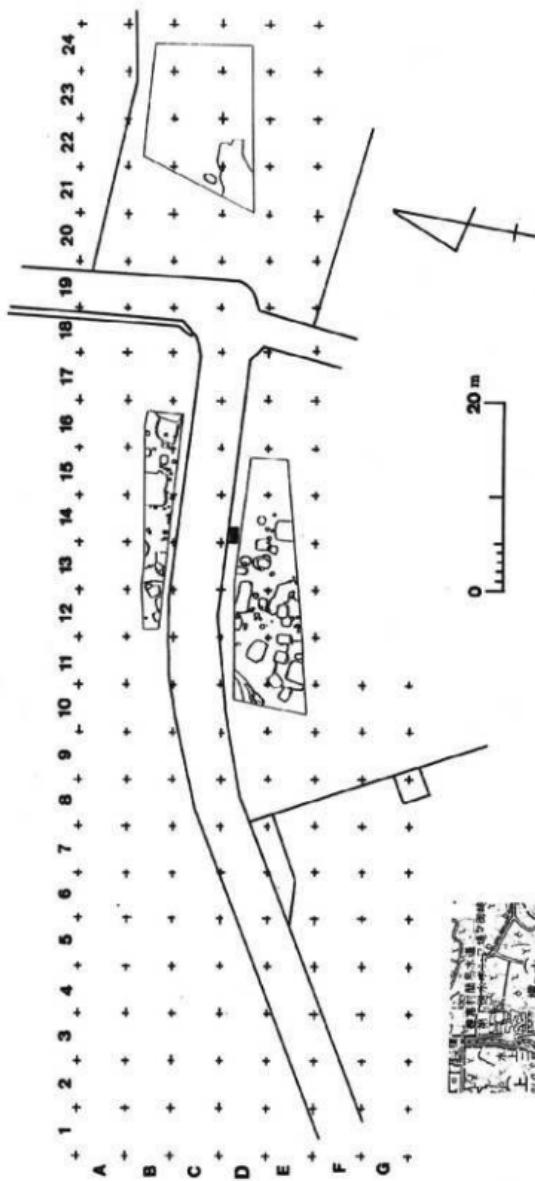
第I層 褐色土（耕作土）

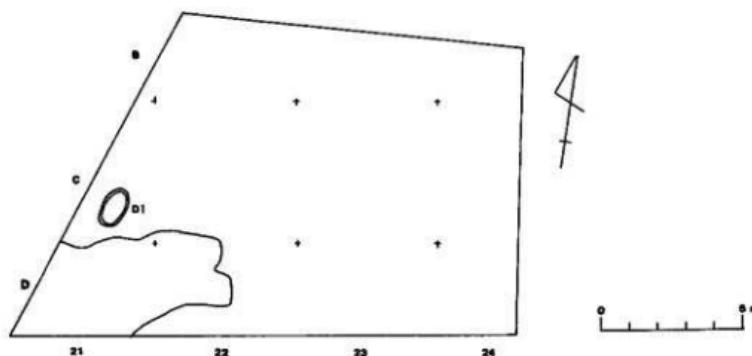
第II層 褐色土（耕作土）

第III層 黄褐色ローム（地山）

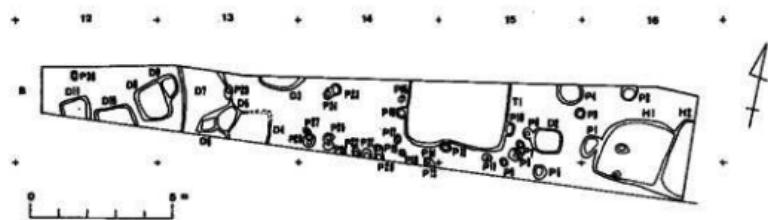
第1図 調査区位置図・全体図

(S=1/10,000)

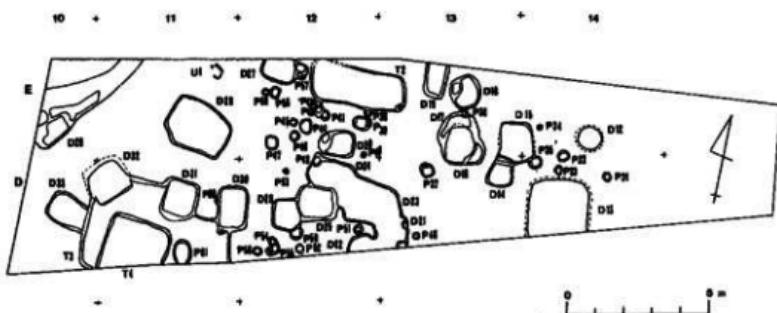




第2図 A区全体図



第3図 B区全体図



第4図 C区全体図

第2章 地理的歴史的環境

豊富村は山梨県のほぼ中央、甲府盆地の南端に位置する。地形的には御坂山塊の北斜面の山地と曾根丘陵台地、浅利川流域の平坦地、及び笛吹川流域の沖積地とに分かれる。

村の南西は標高650～950mに及ぶ急峻な御坂山塊の北面斜面の山地に占められ、これらの山地から平地に移る尾根の末端部に標高240～380mで強粘土質からなるローム層で覆われた曾根丘陵が広がっている。本村の遺跡分布は主にこの曾根丘陵の台地上に位置する。今回調査した横畠遺跡も曾根丘陵の台地上の遺跡であり、各時代の造構・遺物が出土している。

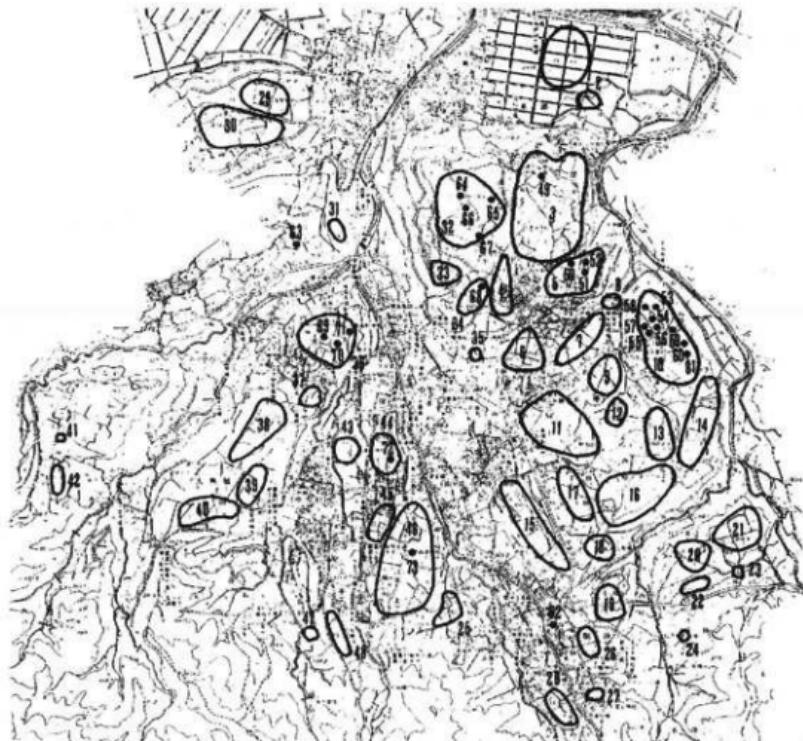
豊富村の初現の遺跡として、横畠遺跡や弥二郎遺跡から先土器時代のナイフ形石器が出土している。それに続く縄文時代の遺跡として、駒平遺跡は中期初頭～前半を主体とし、横畠遺跡は中期後半の住居址が検出された。また高部字山平遺跡で後期中葉の土坑から注口土器の完形品が出土するなど、前期から後期にわたり造構・遺物が検出されている。

弥生時代の造構は横畠遺跡では、昭和60年度に行われた調査で後期の住居址が3軒、また平成3年に行われた試掘の際、溝状造構から外面全体が赤彩され、肩部に波状文を施した広口壺が出土したことがある。また弥二郎遺跡でも後期の住居址が3軒出土している。

古墳時代の遺跡として、高部字山平遺跡では前期の方形周溝墓や中期の住居址が出土しており、また字山平の台地上には王塚古墳や伊勢塚古墳、三星院の裏山に三星院古墳が現存している。奈良・平安時代の遺跡は本村ではほとんど見られず、横畠遺跡で10世紀後半以降の住居址が3軒出土しているに過ぎない。平安時代の豊富村は『和名抄』によると、八代郡沼尾（ぬまのお）郷に属するとされるが、現在この沼尾郷に比定できる遺跡は見つかっていない。

中世になると、甲斐源氏の一族浅利与一義成の支配するところとなり、その伝承も村内各地に残る。また三星院門前の小丘が戦国時代の武田家家臣三枝土佐守虎吉の館跡といわれる。

中近世の遺跡として、横畠遺跡で16世紀を中心とした竪穴状造構や土坑・小穴群といっしょに陶磁器や土師質土器・内耳土器・溶融物付着土器・繩の羽口・錢貨などが出土している。



- | | | | |
|--------------|------------|------------|--------------|
| 1. 明治道路 | 2. 地藏田道路 | 3. 高部半山平道路 | 4. 宇山道路 |
| 5. 中間道路 | 6. 代中道路 | 7. 代中東道路 | 8. 関沢道路 |
| 9. 三枝氏道路 | 10. 上野原道路 | 11. 駒平道路 | 12. 高内道路 |
| 13. 上三口西道路 | 14. 上三口道路 | 15. 你二郎道路 | 16. 東原道路 |
| 17. 原道路 | 18. 中原道路 | 19. 浜井塙道路 | 20. 付山西道路 |
| 21. 竹山北道路 | 22. 神田南道路 | 23. 神田北道路 | 24. 旧三重縣道路 |
| 25. 駒原道路 | 26. 袋戸原道路 | 27. 袋戸原南道路 | 28. 山口漢路 |
| 29. 宮の下道路 | 30. 鶴町原道路 | 31. 沢利氏館路 | 32. 大鳥羽字山平道路 |
| 33. 斜波西道路 | 34. 斜波東道路 | 35. 浜井戸戸道路 | 36. 城原道路 |
| 37. 見間北道路 | 38. 見間道路 | 39. 門田道路 | 40. 田北道路 |
| 41. 南大森道路 | 42. 西の沢道路 | 43. 宮の監道路 | 44. 久保連道路 |
| 45. 川東道路 | 46. 桃堤道路 | 47. 久保田道路 | 48. 前田道路 |
| 49. 伊勢塙古墳 | 50~52. 無名塙 | 53. 三重院古墳 | 54~61. 無名塙 |
| 62. おさんこうじ古墳 | 63. 金塙古墳 | 64. 王塙古墳 | 65. 二子塙古墳 |
| 66~68. 無名塙 | 69. 城原大寺古墳 | 70~72. 無名塙 | 73. お御崎さん古墳 |



第5図 周辺遺跡分布図

第3章 検出された遺構と遺物

第1節 A区の遺構と遺物

1号土坑（第6図）

C-21に位置する。楕円形を呈し、東西幅140cm、南北幅80cm、深さ10~18cmを測る。出土遺物はない。

第2節 B区の遺構と遺物

1号住居址（第7・17図）

B・C-16に位置し、東側は2号住居址に切られている。東西幅は240cm以上、南北幅230cm、壁面の高さは10~14cmを測る。床面は平坦であり、2つのピットが確認できた。P-1は南壁際にあり、円形プランで径25cm、深さが10cm。P-2は住居内の中央やや西側にあり、楕円形プランで長軸50cm、短軸30cm、深さが28cmである。住居の覆土は暗褐色土である。炉の址は見つかなかった。

出土遺物は縄文時代中期後半と思われる土器の破片が11点と、恐らく流れ込みと思われるが、古墳時代の土師器片と中近世の内耳土器片が1点ずつ出土した。2は楕円区画の中に縄文や隆線文を埋め、縄文時代中期後半。

2号住居址（第7・17図）

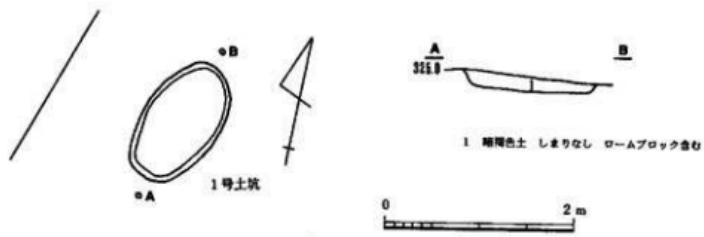
B・C-16に位置し、東側は調査区外に延びる。南北幅276cm、壁面の高さは18~33cmを測る。床面は平坦であり、ピットや炉は確認できなかった。住居の覆土は暗褐色土である。明らかな住居といえる付属施設は発見できなかったが、1号住居土の覆土とほぼ同じ土で、中近世の竪穴状遺構とは掘り込み具合が違うようなので、縄文時代の住居址と判断した。

出土遺物は縄文時代中期後半と思われる土器の破片が9点出土した。3は縄文地に3本の垂下沈線。

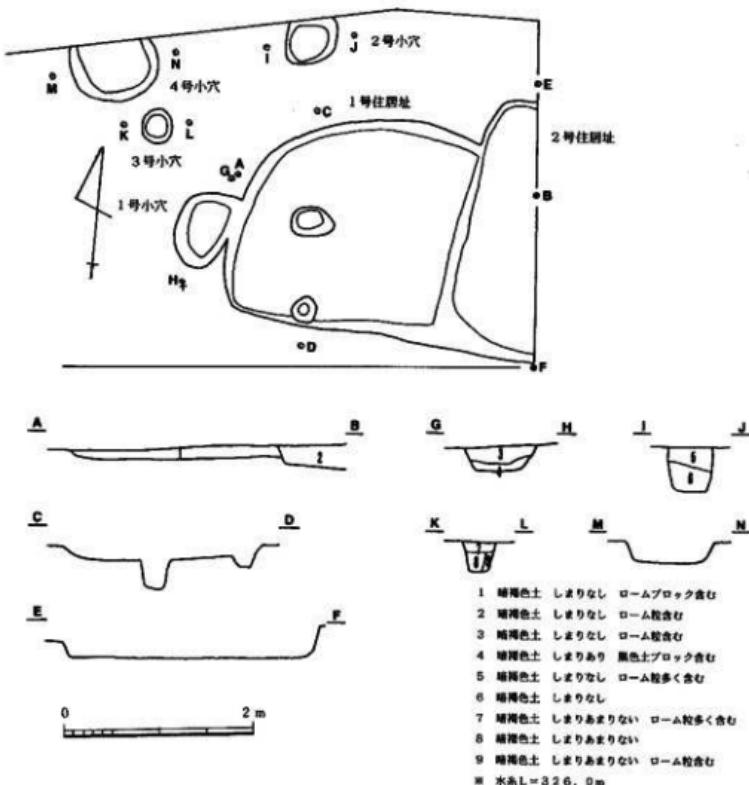
1号竪穴状遺構（第8・17図）

B-14・15に位置し、北側は調査区外に延びる。平面プランは方形あるいは長方形を呈するものと思われる。東西幅350cm、南北幅230cm、壁面の高さは50~55cmを測る。床面は平坦であり、柱穴らしきピットや炉は確認できなかった。覆土は暗褐色土である。

出土遺物は混入して縄文時代中期後半と思われる土器の破片が多数出土した。4は縄文しR。5は縄文R L。6・7は斜め方向の条線地に隆線文。8は蛇行隆線と重弧文。9は重弧文。10~13は条線地に隆線文。



第6図 A区平面図・断面図



第7図 B区平面図・断面図(1)

2号土坑（第8図）

B-15に位置する。方形を呈し、東西幅100cm、南北幅80cm、深さ25cmを測る。床面は平坦である。出土遺物はない。

3号土坑（第9図）

B-13に位置する。北側は調査区外に延びる。東西幅165cm、南北幅43cm以上、深さ45cmを測る。床面は平坦である。出土遺物はない。

4号土坑（第10図）

B-13に位置する。はじめ4～7号土坑を1つの遺構として掘り下げたが、4つの土坑に分けられることが判明したもので、そのためこれらの切り合い関係はわからない。南側が調査区外に延び、西側が5号土坑と切り合う。方形プランを呈するものと思われる。東西幅155cm、南北幅100cm以上、深さ18cmを測る。床面は平坦である。出土遺物はない。

5号土坑（第10図）

B-13に位置する。北側及び西側が6・7号土坑と切り合う。平面プランの形状は不明である。東西幅65cm、南北幅100cm、深さ20cmを測る。出土遺物はない。

6号土坑（第10図）

B-13に位置する。北側が7号土坑と切り合う。平面プランの形状は不明である。東西幅55cm、南北幅43cm、深さ30cmを測る。出土遺物はない。

7号土坑（第10図）

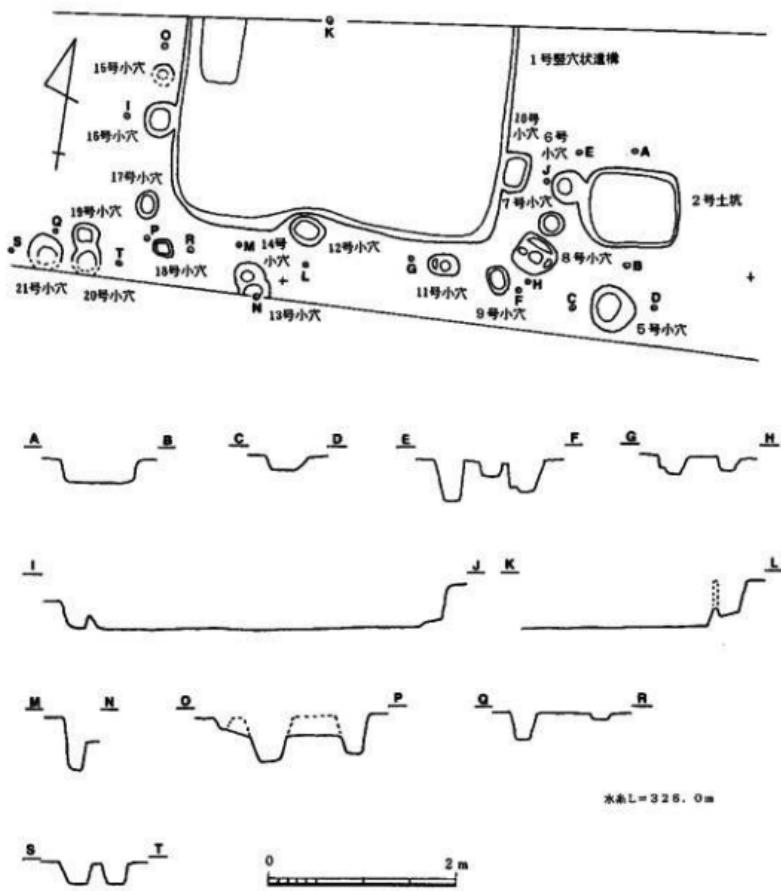
B-13に位置する。南北両側は調査区外に延びる。また南側を5・6号土坑、東側を29号小穴と切り合う。平面プランの形状は不明である。東西幅160cm、南北幅220cm、深さ30～40cmを測る。出土遺物はない。

8号土坑（第11・18図）

B-12に位置する。東側が9号土坑に切られている。方形プランを呈し、東西幅113cm、南北幅127cm、深さ35cmを測る。床面は平坦であり、覆土は暗褐色土である。出土遺物は14の土師質の擂鉢が出土した。

9号土坑（第11図）

B-12に位置する。西側は8号土坑を切っている。楕円形プランを呈し、東西幅120cm、南北幅90cm、深さ10cmを測る。床面は平坦であり、覆土は暗褐色土である。出土遺物はない。



第8図 B区平面図・断面図(2)

10号土坑（第11・18図）

B-12に位置する。南側は調査区外に延びる。方形プランを呈するものと思われ、東西幅は130cm、南北幅75cm以上、深さ65cmを測る。床面は平坦である。出土遺物は15が縄文時代中期後半で、条線地に蛇行隆線。

11号土坑（第11図）

B-12に位置する。南側は調査区外に延びる。方形プランを呈するものと思われ、東西幅は100cm、南北幅75cm以上、深さ40cmを測る。床面は平坦である。出土遺物はない。

1号小穴（第7・18図）

B-16に位置する。東側は1号住居址と切り合う。梢円形プランを呈し、東西幅55cm、南北幅85cm、深さ25cmを測る。床面は平坦であり、覆土は暗褐色土である。出土遺物は16が縄文時代中期後半で、縄文L R。

2号小穴（第7図）

B-16に位置する。北側は調査区外に延びる。円形プランを呈し、東西幅55cm、南北幅50cm以上、深さ50cmを測る。床面は平坦であり、覆土は暗褐色土である。出土遺物はない。

3号小穴（第7図）

B-15に位置する。円形プランを呈し、東西幅30cm、南北幅35cm、深さ35cmを測る。床面は平坦であり、覆土は暗褐色土である。出土遺物はない。

4号小穴（第7図）

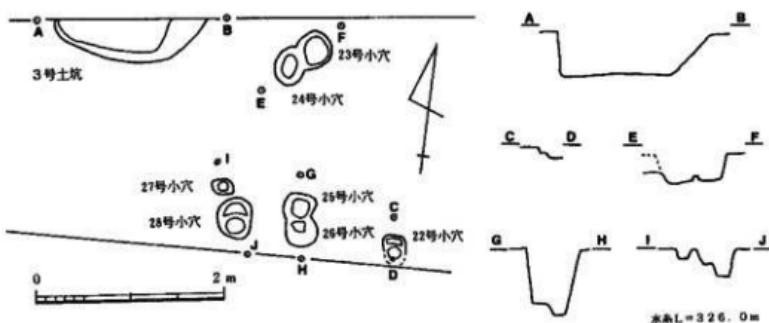
B-15に位置する。北側は調査区外に延びる。円形プランを呈し、東西幅93cm、南北幅63cm以上、深さ20cmを測る。床面は平坦であり、覆土は暗褐色土である。出土遺物はない。

5号小穴（第8図）

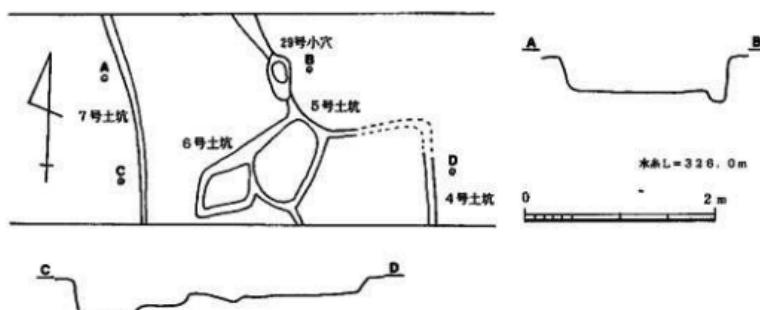
B-15に位置する。円形プランを呈し、東西幅50cm、南北幅50cm、深さ40cmを測る。床面は平坦であり、覆土は暗褐色土である。出土遺物はない。

6号小穴（第8・18図）

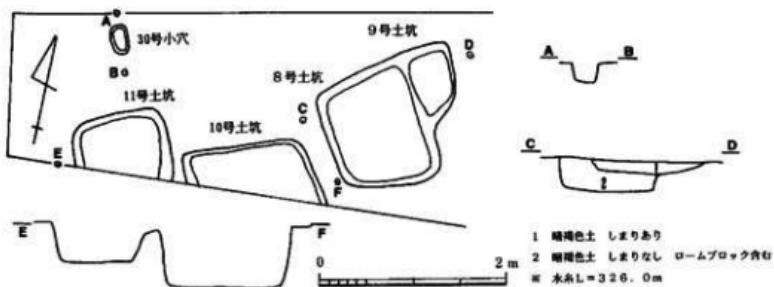
B-15に位置する。東側は2号土坑と切り合う。円形プランを呈し、東西幅35cm、南北幅35cm、深さ45cmを測る。床面は平坦であり、覆土は暗褐色土である。出土遺物は17が縄文時代中期後半で、斜め方向の条線地。



第9図 B区平面図・断面図(3)



第10図 B区平面図・断面図(4)



第11図 B区平面図・断面図(5)

7号小穴（第8図）

B-15に位置する。円形プランを呈し、東西幅25cm、南北幅25cm、深さ12cmを測る。床面は平坦であり、覆土は暗褐色土である。出土遺物はない。

8号小穴（第8図）

B-15に位置する。方形プランを呈し、東西幅45cm、南北幅48cm、深さ30cmを測る。壁面は東西及び北側に段をもち、底面は平坦であり、覆土は暗褐色土である。出土遺物はない。

9号小穴（第8図）

B・C-15に位置する。楕円形プランを呈し、東西幅20cm、南北幅30cm、深さ15cmを測る。床面は平坦であり、覆土は暗褐色土である。出土遺物はない。

10号小穴（第8図）

B-15に位置する。平面は方形プランを呈し、西側は1号竪穴状造構に切られている。東西幅27cm、南北幅43cm、深さ35cmを測る。床面は平坦であり、覆土は暗褐色土である。出土遺物はない。

11号小穴（第8図）

B-15に位置する。楕円形プランを呈し、東西幅33cm、南北幅23cm、深さ20cmを測る。壁面は西側に段をもつ。底面は平坦であり、覆土は暗褐色土である。出土遺物はない。

12号小穴（第8図）

B-15に位置する。楕円形プランを呈し、東西幅35cm、南北幅30cm、深さ35cmを測る。壁面は西側に段をもつ。底面は平坦であり、覆土は暗褐色土である。出土遺物はない。

13号小穴（第8図）

B-14に位置する。北側は14号小穴と切り合う。円形プランを呈し、東西幅33cm、深さ25cmを測る。床面は平坦であり、覆土は暗褐色土である。出土遺物はない。

14号小穴（第8図）

B-14に位置する。南側は13号小穴と切り合う。円形プランを呈し、東西幅30cm、深さ55cmを測る。床面は平坦であり、覆土は暗褐色土である。出土遺物はない。

15号小穴（第8図）

B-14に位置する。南半部は試掘時に壊してしまった。円形プランを呈し、東西幅25cm、深さ12cmを測る。覆土は暗褐色土である。出土遺物はない。

16号小穴（第8図）

B-14に位置する。円形プランを呈し、西側は1号堅穴状遺構と切り合う。確認面は試掘時に削り過ぎてしまった。東西幅35cm、南北幅38cm、深さは推定48cmを測る。床面は平坦で、覆土は暗褐色土である。出土遺物はない。

17号小穴（第8図）

B-14に位置する。楕円形プランを呈し、東西幅24cm、南北幅30cm、深さ40cmを測る。床面は平坦であり、覆土は暗褐色土である。出土遺物はない。

18号小穴（第8図）

B-14に位置する。方形プランを呈し、東西幅20cm、南北幅17cm、深さ6cmを測る。床面は平坦であり、覆土は暗褐色土である。

19号小穴（第8図）

B-14に位置する。南側は20号小穴と切り合う。円形プランを呈し、東西幅27cm、深さ30cmを測る。床面は平坦であり、覆土は暗褐色土である。出土遺物はない。

20号小穴（第8図）

B-14に位置する。北側は19号小穴と切り合う。円形プランを呈し、東西幅28cm、深さ20cmを測る。床面は平坦であり、覆土は暗褐色土である。出土遺物はない。

21号小穴（第8図）

B-14に位置する。北側は調査区外に延びる。楕円形プランを呈し、東西幅38cm、深さ25cmを測る。床面は平坦であり、覆土は暗褐色土である。出土遺物はない。

22号小穴（第9図）

B-14に位置する。南側は調査区外に延びる。東西幅25cm、深さ12cmを測る。壁面は北側に段をもつ。底面は平坦であり、覆土は暗褐色土である。出土遺物はない。

23号小穴（第9図）

B-14に位置する。西側は24号小穴と切り合う。円形プランを呈し、東西幅38cm、南北幅38cm、深さ30cmを測る。床面は平坦であり、覆土は暗褐色土である。出土遺物はない。

24号小穴（第9図）

B-14に位置する。遺構の上部を試掘の際に壊してしまった。東側は23号小穴と切り合う。楕円形プランを呈し、東西幅30cm、南北幅40cm、深さは推定30cmを測る。床面は平坦であり、

覆土は暗褐色土である。出土遺物はない。

25号小穴（第9図）

B-14に位置する。南側は24号小穴と切り合う。円形プランを呈し、東西幅35cm、深さ58cmを測る。床面は平坦であり、覆土は暗褐色土である。出土遺物はない。

26号小穴（第9図）

B-14に位置する。北側は25号小穴と切り合う。円形プランを呈し、東西幅33cm、深さ70cmを測る。床面は平坦であり、覆土は暗褐色土である。出土遺物はない。

27号小穴（第9図）

B-14に位置する。楕円形プランを呈し、東西幅25cm、南北幅17cm、深さ10cmを測る。床面は平坦であり、覆土は暗褐色土である。出土遺物はない。

28号小穴（第9図）

B-14に位置する。楕円形プランを呈し、東西幅35cm、南北幅46cm、深さ30cmを測る。壁面は北側に段をもつ。床面は平坦であり、覆土は暗褐色土である。出土遺物はない。

29号小穴（第10図）

B-13に位置する。楕円形プランを呈し、東西幅25cm、南北幅50cm、深さ50cmを測る。床面は平坦であり、覆土は暗褐色土である。出土遺物はない。

30号小穴（第11図）

B-12に位置する。楕円形プランを呈し、東西幅18cm、南北幅32cm、深さ20cmを測る。床面は平坦であり、覆土は暗褐色土である。出土遺物はない。

18~25はⅡ層出土で、いずれも縄文時代中期後半。18は斜め方向の条線地に隆線。19~20は半截竹管による条線地に隆線文。21は沈線文。22は隆線文。23~24は蛇行隆線文。25は土製円盤で、縄文地。幅3.8cmを測る。（第18図）

第3節 C区の遺構と遺物

1号埋壺（第15図・第17図1）

D-11に位置する。胴部は無く、口縁部のみを使い、正位の状態で10cmほど地面に埋め込んでいる。西半分が欠損し、口縁部の上部も欠け、上から押されたように外側に開いた状態で出土したが、これは耕作土による土圧であろう。頸部径は36cm。頸部に隆線をめぐらす。

2号竪穴状遺構（第13・19図）

D-12・13に位置し、北側の一部が調査区外に延びる。平面プランは長方形プランを呈し、東西幅350cm以上、南北幅130cm、深さは15cmを測る。床面は平坦であり、南東隅にピットが1つあった。覆土は暗褐色土で、焼土粒・炭化物が混入する。出土遺物は26が縄文時代中期後半で、列点文地に隆線文。

3号竪穴状遺構（第16・19図）

E-10・11に位置し、北側は30・31土坑に切られ、また32・33号土坑を切っている。中央部は4号竪穴状遺構に切られ、南側は調査区外に延びる。平面プランは方形を呈するものと思われ、東西幅530cm、南北幅350cm以上、深さは32～34cmを測る。床面は平坦で、床面には柱穴らしいピットはない。覆土は褐色土である。出土遺物は縄文時代中期後半の土器の破片が約20点ほど混入していた他、27の溶融物付着土器が1点出土した。口径8.0cm、底径6.0cm、器高1.8cmを測る。土師質皿で内外面ともにヨコナデ調整、底面にスノコ状圧痕がつく。内面全体に溶融物が付着する。

4号竪穴状遺構（第16図）

E-11に位置し、南側は調査区外に延びる。3号竪穴状遺構の覆土を掘り下げた後、床面にさらに四角いプランの掘り込みが確認され、土層ベルトの観察により3号竪穴状遺構を切っていることが確認でき、3号竪穴状遺構とは別遺構とした。東西幅230cm、南北幅200cm以上、深さは45cmを測る。床面は平坦で、床面には柱穴らしいピットはない。覆土は褐色土と暗褐色土である。出土遺物はない。

12号土坑（第12・19図）

D-14に位置する。平面プランは円形を呈し、径80cm、深さ55cmを測る。壁面は下部へ行くほど広がり、いわゆる袋状土坑の形態を有する。床面は平坦である。覆土は褐色土と暗褐色土の2層である。出土遺物は縄文土器の破片が2点出土した。28は縄文時代中期後半で、条線地に隆線文。

13号土坑（第12・19図）

E-14に位置する。南側は調査区外に延びる。平面プランは方形を呈するものと思われ、東西幅が205cm、南北幅180cm以上、深さ80cmを測る。壁面は中央部がやや内湾し、床面の下場が奥に入り込み、袋状土坑の特徴が見られるが、壁の崩落土と思われる土が床面に堆積しているので当初は壁面は垂直に掘り込まれた土坑であったと考えられる。床面は平坦である。覆土は暗褐色土と褐色土、そして崩落土と思われる黄褐色ロームの3層で褐色土は2層に細分できる。出土遺物は溶融物付着土器や土師質皿・擂鉢の破片や縄文土器や古墳時代の土器の破片などが出土した。29は土師質の擂鉢である。30は縄文時代中期後半で、条線地に隆線文。

14号土坑（第12図）

E-13に位置し、北側は15号土坑に切られる。平面プランはほぼ方形を呈するものと思われる。東西幅95cm、南北幅75cm以上、深さ25cmを測る。床面はレンズ状を呈し、覆土は黒褐色土である。出土遺物はない。

15号土坑（第12図）

D・E-13・14に位置する。北側は15号土坑に切られる。平面プランは長方形を呈し、東西幅110cm、南北幅140cm以上、深さ65cmを測る。床面は平坦で、覆土は褐色土と暗褐色土・黒色土である。出土遺物は縄文土器や古墳時代の土師器の破片が出土した。

16号土坑（第12・19図）

D・E-13に位置する。北側は17号土坑を切り合っているが、新旧関係は不明である。平面プランは不定形を呈し、東西幅160cm、南北幅130cm以上、深さ70cmを測る。東側にテラス状の中段をもつ。床面は平坦で、覆土は暗褐色土である。出土遺物は土師質皿や内耳土器の他、縄文土器が混入していた。31は土師質皿で底径9.4cm。内外面ともにヨコナデ調整。底面に回転糸切痕が残る。

17号土坑（第12図）

D-13に位置する。南側は17号土坑と、北側は37号小穴と切り合っている。平面プランは不明である。東西幅は145cm、南北幅50cm以上、深さ10cmを測る。床面は平坦である。出土遺物はない。

18号土坑（第12図）

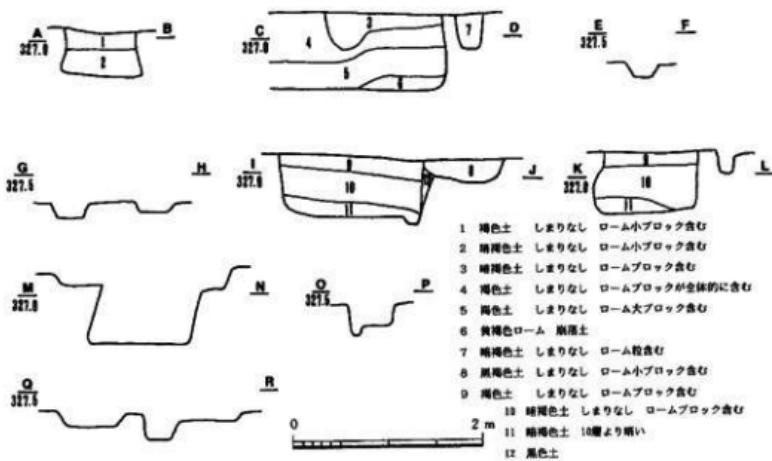
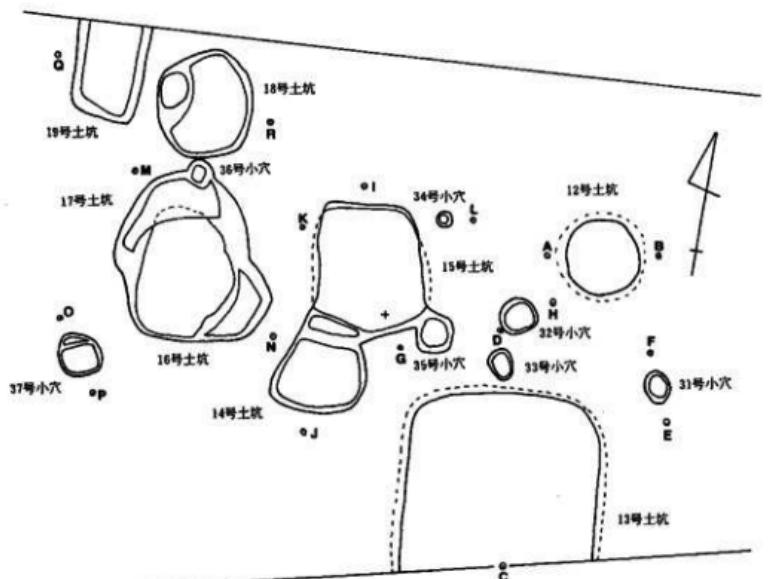
D-13に位置し、平面プランは円形を呈するものと思われ、東西幅105cm、南北幅115cm、深さ6cmで、西側隅に確認面からの深さ27cmを測るピットがある。出土遺物は縄文土器と土師器の破片が出土した。

19号土坑（第12図）

D-13に位置し、北側は調査区外に延びる。平面プランは長方形を呈する。東西幅は75cm、南北幅105cm以上、深さ18cmで、西側隅に確認面からの深さ27cmを測るピットがある。出土遺物は縄文土器と土師器の破片が出土した。

20号土坑（第13図）

E-12に位置する。平面プランは長方形を呈する。東西幅130cm、南北幅90cm、深さ20cmを測り、西側隅に確認面からの深さ90cmを測るピットがある。覆土は褐色土と暗褐色土の互層である。出土遺物は縄文土器が3点出土した。



第12図 C区平面図・断面図(1)

21号土坑（第14図）

E-12・13に位置し、南側は調査区外に延びる。また西側が22号土坑と、北側が23号土坑と切り合っており、新旧関係は不明である。平面プランは方形を呈するものと思われる。東西幅115cm、南北幅115cm以上、深さ12~30cmで、床面は東側に下がる。床面には20×27×10cm、16×16×16cm、20×20×25cmの3つにピットが見られた。出土遺物はない。

22号土坑（第14図）

E-12に位置し、南側は調査区外に延びる。また東側が21号土坑と切り合っている。平面プランは方形を呈するものと思われる。東西幅80cm、南北幅65cm以上、深さ15cmで、床面は平坦である。出土遺物は土師質皿の破片が出土した。

23号土坑（第14・19図）

E-12・13に位置し、南側が21号土坑と、西側が24号土坑と切り合っている。平面プランは長方形を呈するものと思われ、東西幅205cm、南北幅155cm、深さ10cmを測る。床面は平坦であり、覆土は褐色土である。出土遺物は32が縄文時代中期後半で、縄文地に沈線文。

24号土坑（第14図）

D・E-12に位置し、東側が23号土坑と切り合い、南側が25号土坑に切られている。また北西隅に50号小穴と切り合っている。平面プランは長方形を呈するものと思われる。東西幅170cm、南北幅150cm、深さ15cmを測る。床面は平坦で、覆土は褐色土である。出土遺物は縄文土器が1点混入していた。

25号土坑（第14・19図）

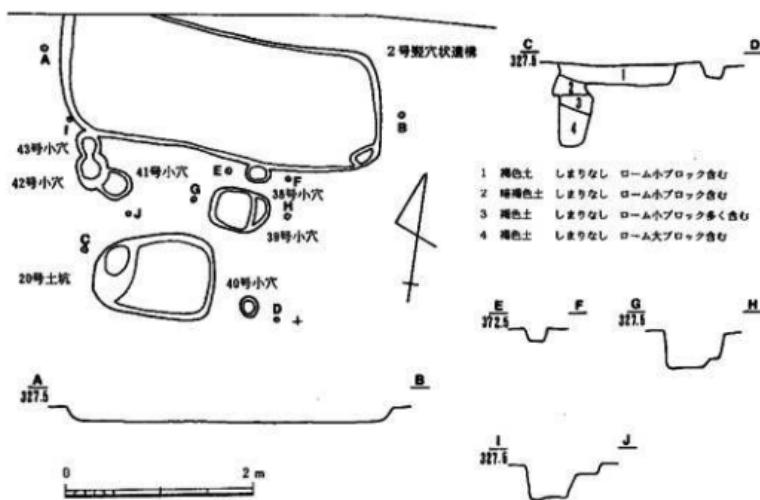
E-12に位置し、北及び東側で24号土坑を、西側で26号土坑を切っている。平面プランは長方形を呈し、東西幅150cm、南北幅125cm、深さ25cmを測る。床面は平坦で、覆土は褐色土と暗褐色土である。出土遺物は33の回転糸切痕が残る土師質皿の底部が出土した。

26号土坑（第14図）

E-12に位置し、東側で25号土坑に切られ、平面プランは方形を呈し、東西幅105cm以上、南北幅100cm、深さ40cmを測る。床面はほぼ平坦で、覆土は褐色土と暗褐色土、それにローマブロック層の3層である。出土遺物は縄文土器が2点混入していた。

27号土坑（第14図）

D-12に位置し、北側は調査区外に延びる。また東側は58号小穴と切り合っている。平面プランは長方形を呈し、東西幅125cm、南北幅95cm以上、深さ40cmを測る。床面は平坦で、出土遺物は縄文土器や古墳時代の土師器・土師質土器の破片が出土した。



第13図 C区平面図・断面図(2)

28号土坑（第15図）

D-11に位置し、平面プランは長方形を呈し、東西幅230cm、南北幅175cm、深さ35cmを測る。床面はほぼ平坦で、覆土は褐色土である。出土遺物は縄文土器や古墳時代の土師器の破片が出土した。

29号土坑（第15図）

D-10に位置し、北側は攢乱を受け遺存状態が悪い。平面プランは長方形を呈し、東西幅65cm以上、南北幅145cm、深さ54cmを測る。床面はほぼ平坦である。出土遺物は縄文土器や古墳時代の土師器、内耳土器、土師質皿の破片が出土した。

30号土坑（第16・19図）

E-10・11に位置し、南側は3号竪穴状遺構を切り、西側は61号小穴と切り合っている。平面プランは長方形で、東西幅105cm、南北幅150cm、深さ60cmを測る。床面は平坦であり、覆土は暗褐色土である。出土遺物は縄文土器の破片の他、34の脚付土師質皿が出土した。

31号土坑（第16図）

E-11に位置し、南側は3号竪穴状造構を切っている。平面プランは長方形で、東西幅125cm、南北幅140cm、深さ50cmを測る。床面は平坦であり、覆土は暗褐色土である。出土遺物は縄文土器の破片が混入していた。

32号土坑（第16・19図）

E-10・11に位置し、南側は3号竪穴状造構に切られている。平面プランは長方形で、東西幅140cm、南北幅125cm、深さ75cmを測る。壁面は西側が床面向かって奥に入り、断面がフラスコ状を呈する。床面は平坦であり、覆土は褐色土と暗褐色土の互層である。出土遺物は縄文土器の破片や凹石、古墳時代の土師器が混入していた。35は凹石で安山岩製。長さ11.8cm、幅6.0cm、厚さ3.0cmを測る。

33号土坑（第16図）

E-10に位置し、東側は3号竪穴状造構に切られている。平面プランは長方形で、東西幅は135cm、南北幅105cm、深さ4cmを測る。床面は平坦であり、覆土は褐色土である。出土遺物はない。

31号小穴（第12図）

E-14に位置する。平面プランは梢円形で、東西幅は30cm、南北幅35cm、深さ16cmを測る。床面は平坦であり、覆土は褐色土である。出土遺物はない。

32号小穴（第12図）

E-14に位置する。平面プランはほぼ円形で、径40cm、深さ10cmを測る。床面は平坦で、覆土は褐色土である。出土遺物はない。

33号小穴（第12図）

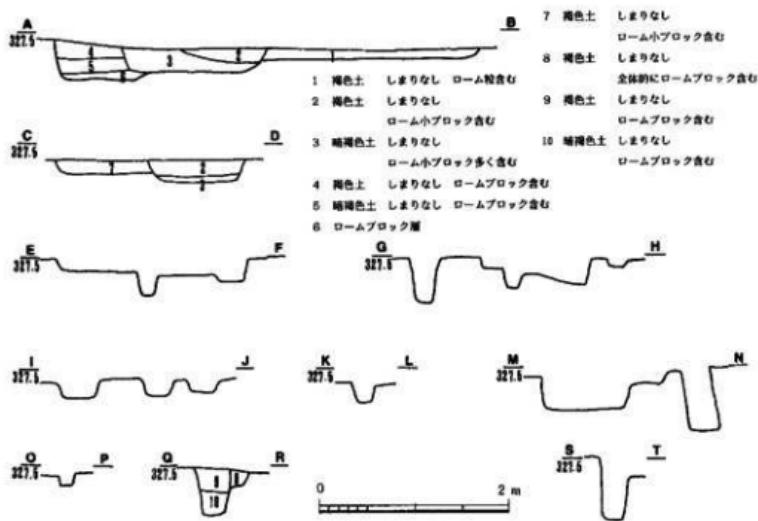
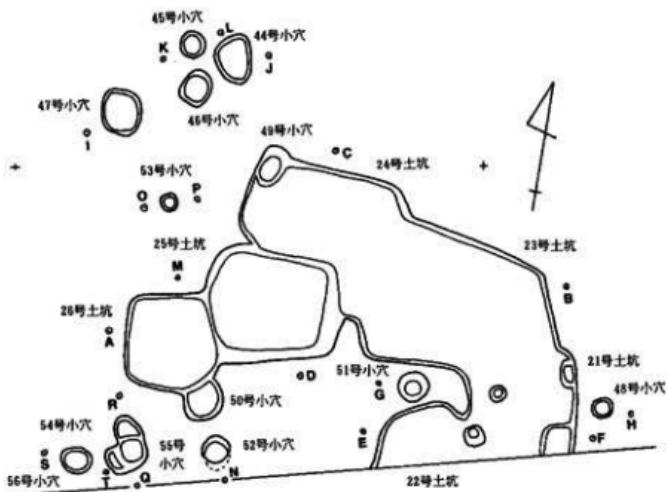
E-14に位置する。平面プランは梢円形で、東西幅は25cm、南北幅35cm、深さ35cmを測る。床面は平坦であり、覆土は暗褐色土である。出土遺物は縄文土器片が1点出土した。

34号小穴（第12図）

D-14に位置する。平面プランは梢円形で、東西幅は20cm、南北幅15cm、深さ25cmを測る。床面は平坦であり、覆土は暗褐色土である。出土遺物はない。

35号小穴（第12図）

E-14に位置する。平面プランはほぼ円形で、径40cm、深さ15cmを測る。床面は平坦で、覆土は暗褐色土である。出土遺物はない。



第14図 C区平面図・断面図(3)

36号小穴（第12図）

D-13に位置し、南側で17号土坑と切り合う。平面プランはほぼ円形で、径30cm、深さ20cmを測る。床面は平坦で、覆土は褐色土である。出土遺物はない。

37号小穴（第12図）

D-13に位置し、南側で17号土坑と切り合う。平面プランはほぼ円形で、径45cm、深さ20cmを測る。床面は平坦で、北側がさらに10cmほど落ち込む。覆土は褐色土である。出土遺物はない。

38号小穴（第13図）

D-12に位置し、北側で2号竪穴状遺構と切り合う。平面プランは楕円形で、東西幅25cm、南北幅15cm、深さ14cmを測る。床面は平坦で、覆土は暗褐色土である。出土遺物はない。

39号小穴（第13図）

D-12に位置し、平面プランは楕円形で、東西幅65cm、南北幅45cm、深さ40cmを測る。床面はほぼ平坦で、東側にテラス状の段をもつ。覆土は褐色土である。出土遺物はない。

40号小穴（第13図）

D-12に位置し、平面プランは楕円形で、東西幅18cm、南北幅23cm、深さ10cmを測る。床面は平坦で、覆土は褐色土である。出土遺物はない。

41号小穴（第13図）

D-12に位置し、西側は42号小穴と切り合っている。平面プランは円形で、径35cm、深さ12cmを測る。床面は平坦で、覆土は褐色土である。出土遺物はない。

42号小穴（第13図）

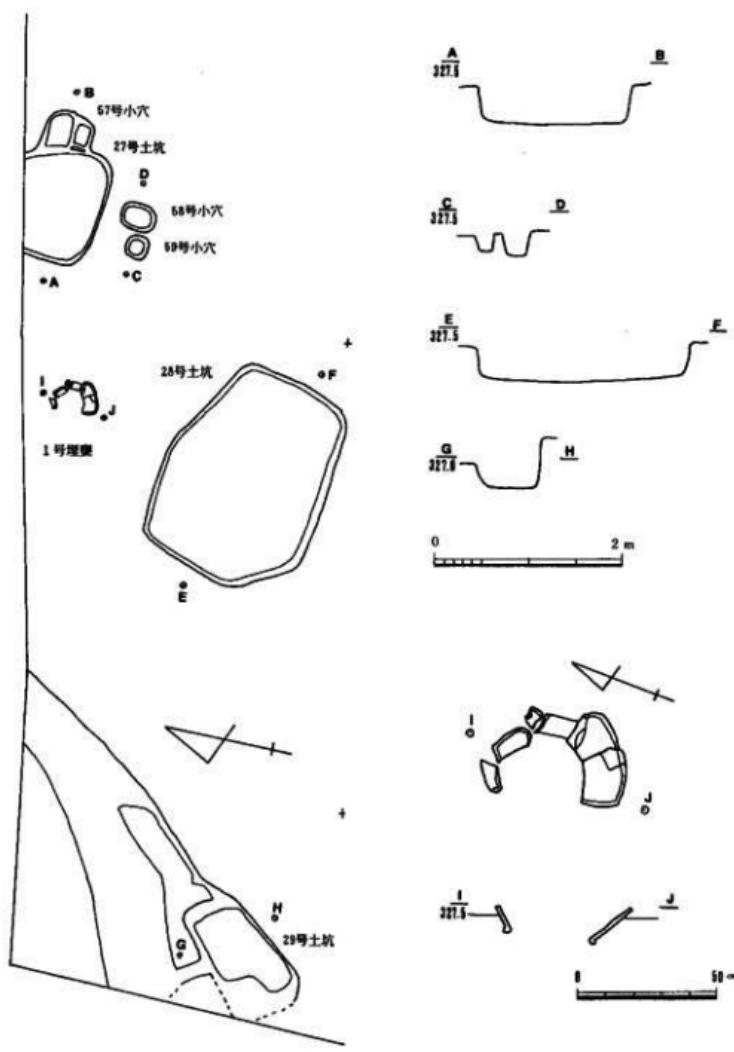
D-12に位置し、東西両側で41・43号小穴と切り合っている。平面プランは円形、径35cm、深さ30cmを測る。床面は平坦で、覆土は褐色土である。出土遺物はない。

43号小穴（第13図）

D-12に位置し、東側は42号小穴と切り合っている。平面プランは円形で、径25cm、深さ35cmを測る。床面は平坦で、覆土は暗褐色土である。出土遺物は縄文土器片が1点出土した。

44号小穴（第14号）

D-12に位置し、平面プランは楕円形で、東西幅40cm、南北50cm、深さ15cmを測る。床面は平坦で、覆土は褐色土である。出土遺物はない。



第15図 C区平面図・断面図(4)

45号小穴（第14図）

D-12に位置する。平面プランは円形で、径30cm、深さ20cmを測る。床面は平坦で、覆土は褐色土である。出土遺物は古墳時代の土師器片が1点出土した。

46号小穴（第14図）

D-12に位置する。平面プランは円形で、径35cm、深さ20cmを測る。床面は平坦で、覆土は暗褐色土である。出土遺物はない。

47号小穴（第14図）

D-12に位置する。平面プランは円形で、径43cm、深さ15cmを測る。床面は平坦で、覆土は褐色土である。出土遺物は繩文土器片が1点出土した。

48号小穴（第14図）

E-13に位置する。平面プランは円形で、径20cm、深さ10cmを測る。床面は平坦で、覆土は褐色土である。出土遺物はない。

49号小穴（第14図）

D-12に位置し、東側が24号土坑と切り合う。平面プランは梢円形で、東西幅27cm、南北幅45cm、深さ35cmを測る。床面は平坦で、覆土は暗褐色土である。出土遺物はない。

50号小穴（第14図）

E-12に位置し、北側は26号土坑と切り合っている。平面プランは円形で、径40cm、深さ15cmを測る。床面は平坦で、覆土は褐色土である。出土遺物はない。

51号小穴（第14図）

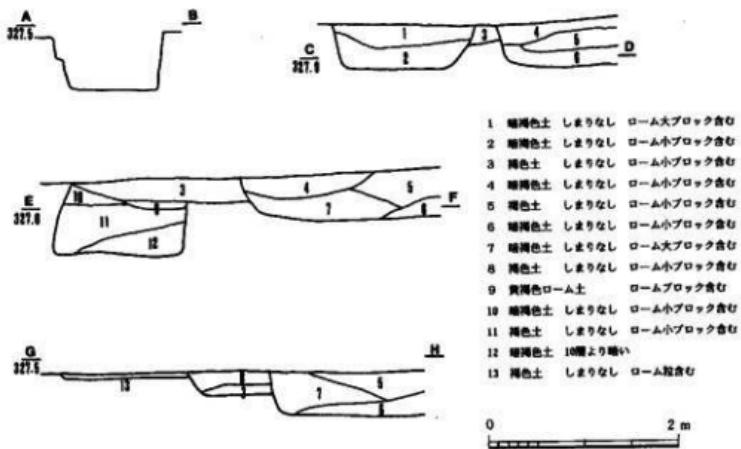
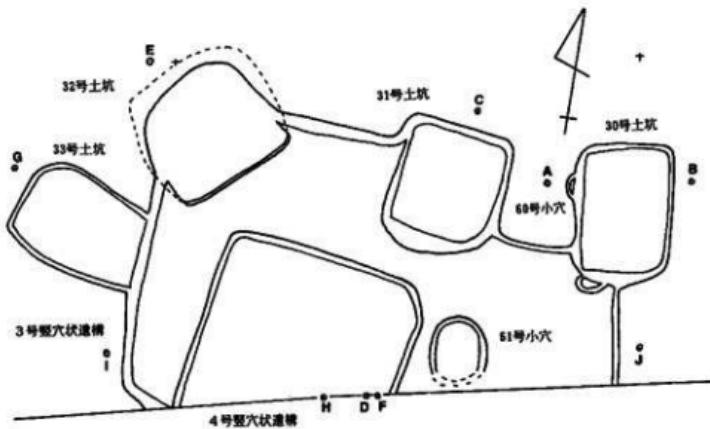
E-12に位置する。平面プランは円形で、径33cm、深さ50cmを測る。床面は平坦で、覆土は暗褐色土である。出土遺物はない。

52号小穴（第14図）

E-12に位置する。平面プランはほぼ円形で、径30cm、深さ70cmを測る。壁面は全体的に南方向に傾き、床面は平坦で、覆土は褐色土である。出土遺物はない。

53号小穴（第14図）

E-12に位置し、平面プランは円形で、径20cm、深さ12～15cmを測る。床面は平坦で、覆土は暗褐色土である。出土遺物はない。



第16図 C区平面図・断面図(5)

54号小穴（第14図）

E-12に位置し、南側は55号小穴に切られる。平面プランは楕円形を呈するものと思われ、東西幅28cm、南北幅23cm以上、深さ15cmを測る。床面はほぼ平坦で、覆土は褐色土である。出土遺物はない。

55号小穴（第14図）

E-12に位置し、北側は54号小穴を切っている。平面プランは楕円形で、東西幅45cm、南北幅28cm、深さ50cmを測る。床面はほぼ平坦で、西側にテラス状の段をもつ。覆土は褐色土と暗褐色土の2層である。出土遺物はない。

56号小穴（第14図）

E-12に位置し、東側が24号土坑と切り合う。平面プランは楕円形で、東西幅32cm、南北幅25cm、深さ68cmを測る。床面は平坦で、覆土は暗褐色土である。出土遺物は縄文土器片が1点出土した。

57号小穴（第15図）

D-12に位置し、西側が27号土坑と切り合う。平面プランは方形で、東西幅40cm以上、南北幅53cm、深さ42cmを測る。床面は平坦で、北側にテラス状の段をもつ。覆土は暗褐色土と褐色土である。出土遺物は縄文土器片が1点出土した。

58号小穴（第15図）

D-12に位置する。平面プランは方形で、東西幅30cm、南北幅38cm、深さ30cmを測る。床面は平坦で、覆土は褐色土である。出土遺物は縄文土器片が2点出土した。

59号小穴（第15図）

D-12に位置する。平面プランは方形で、東西幅25cm、南北幅25cm、深さ20cmを測る。床面は平坦で、覆土は褐色土である。出土遺物はない。

60号小穴（第16図）

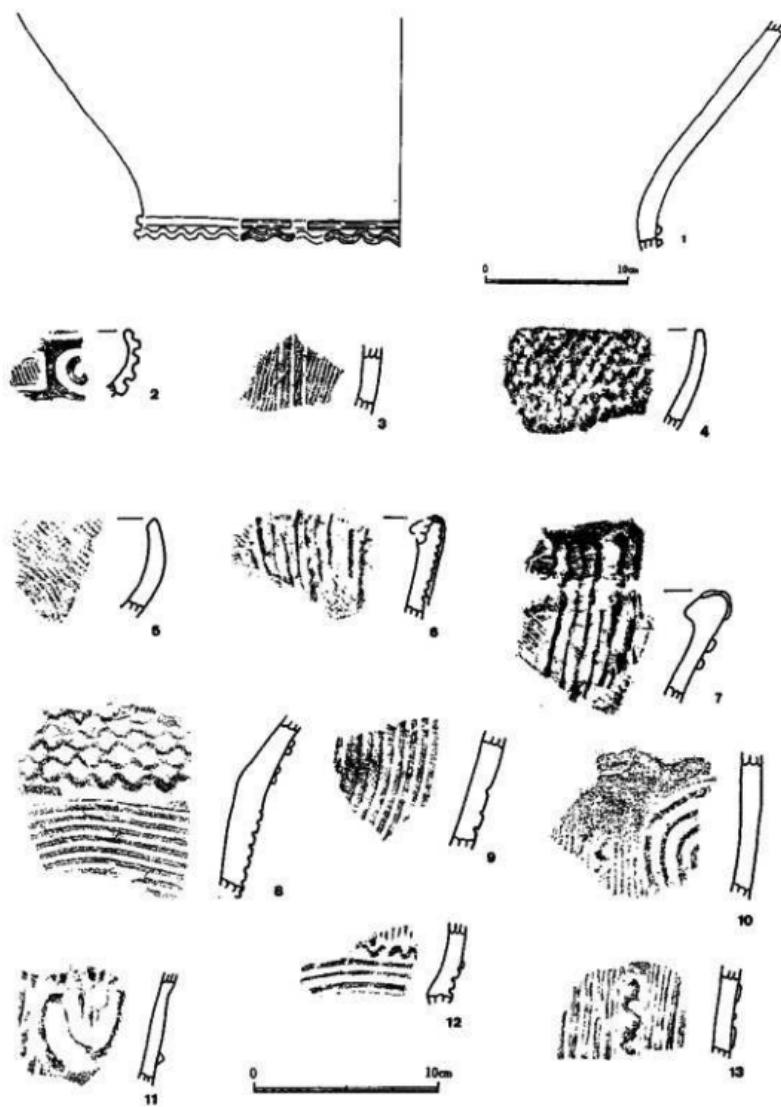
E-11に位置し、東側が30号土坑と切り合う。平面プランは円形を呈するものと思われ、南北幅30cm、深さ25cmを測る。床面は平坦で、覆土は褐色土である。出土遺物はない。

61号小穴（第16図）

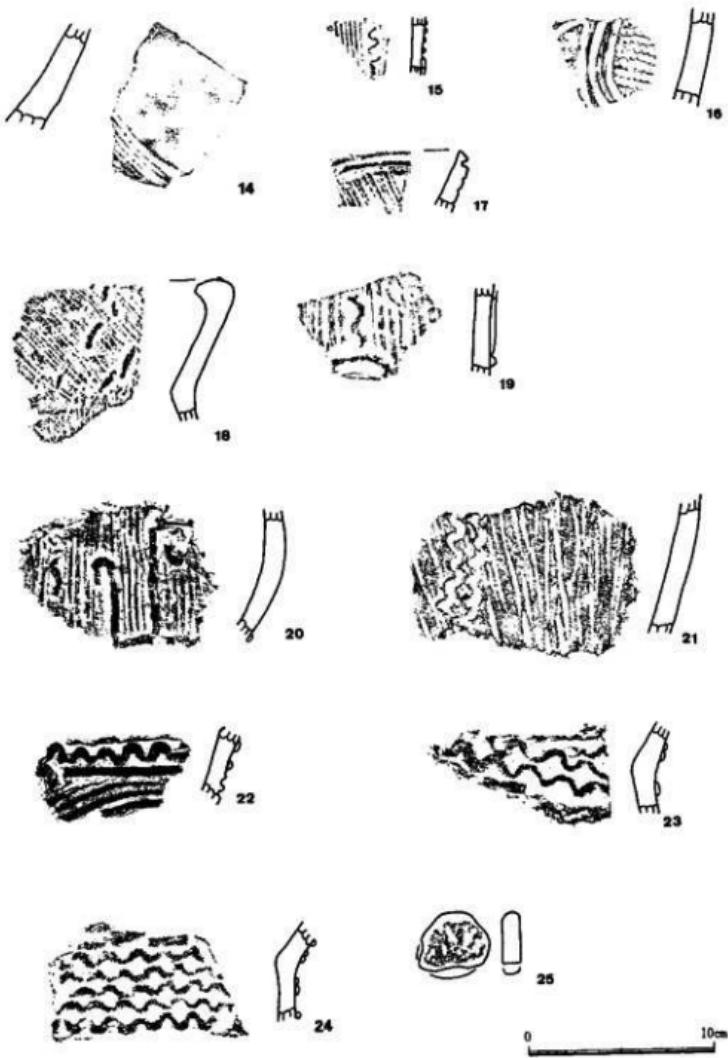
E-11に位置し、3号竪穴状遺構の覆土を掘削後に確認できた小穴だが、3号竪穴状遺構に伴うものかどうかはわからなかったので、別遺構として扱った。平面プランは楕円形を呈し、東西幅60cm、南北幅75cm、3号竪穴状遺構の床面からの深さは10cmを測る。床面は平坦

で、覆土は黒灰色土である。出土遺物はない。

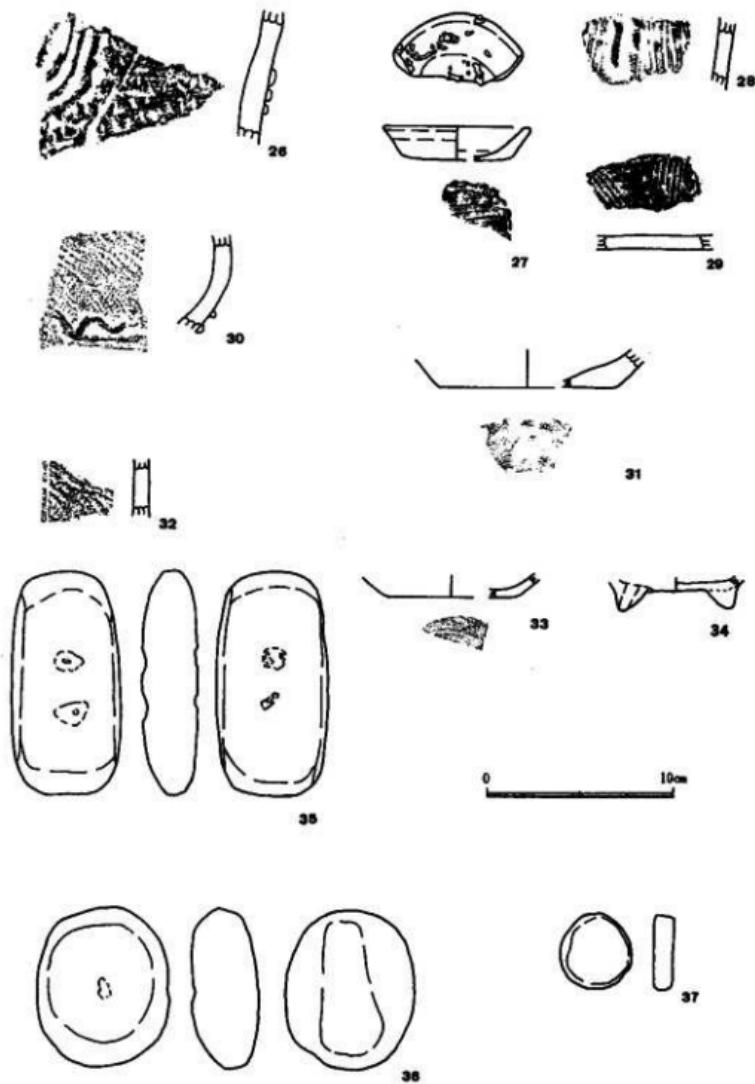
36～50はⅡ層出土。36は凹石で、安山岩製。長さ8.5cm、幅7.0cm、厚さ3.5cmを測る。37は土製円盤で、長さ4.0cm、無文。38～42は縄文時代中期後半。38は縄文地で、口唇部に刺突をめぐらす。39は斜め方向の条線。40～42は条線地に蛇行隆線。43～44は土師質皿の溶融物付着土器。43は完形品で、口径8.0cm、底径4.6cm、器高1.9cmを測る。内外面ともにヨコナデ調整。底部に回転糸切痕が残る。内面の半分に偏って溶融物が付着する。44は口径7.0cmを測り、内外面ともにヨコナデ調整。内面に融解物が付着する。45～48は土師質皿。45は口径11.0cm、底径6.0cm、器高2.5cmを測る。内外面ともにヨコナデ調整。46は口径9.6cmを測り、内外面ともにヨコナデ調整。47は口径7.6cm、底径4.6cm、器高1.6cmを測る。内外面ともにヨコナデ調整。底部に回転糸切痕が残る。48は底径6.6cmを測る。内外面ともにヨコナデ調整。底部に回転糸切痕が残る。49は志野皿の底部で、高台部が欠損している。高台径が推定で6.4cm。灰色の釉薬が内外面に塗られている。50は北宋銭で、「宋通元寶」。



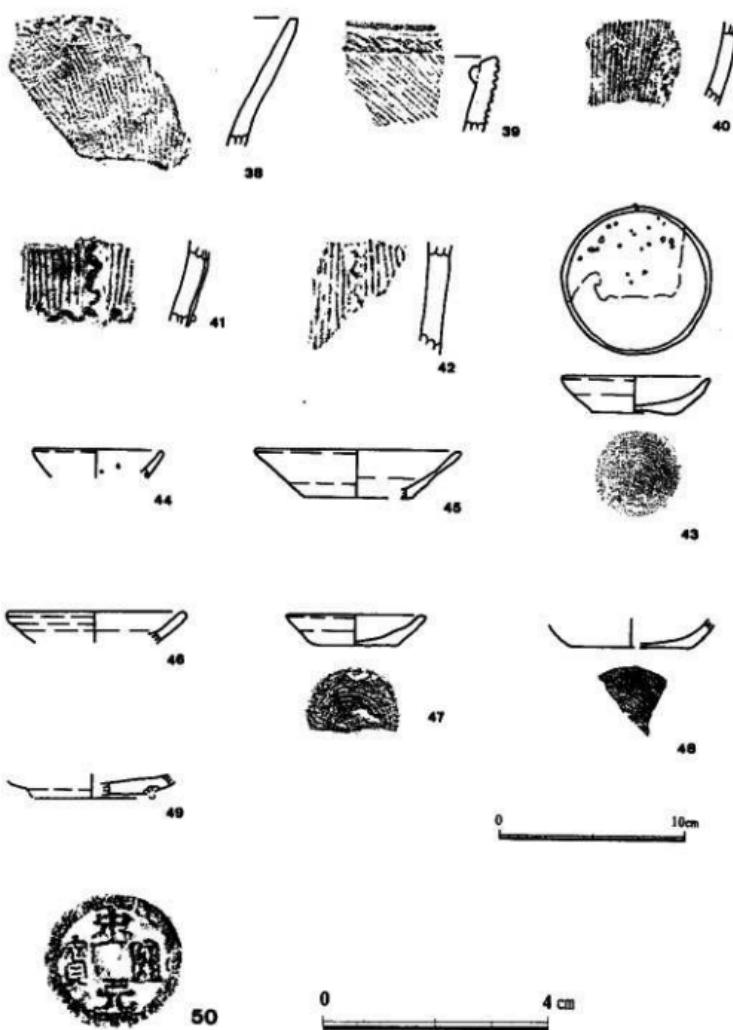
第17図 出土遺物(1)



第18図 出土遺物(2)



第19図 出土遺物(3)



第20図 出土遺物(4)

第4章 ま　　と　　め

調査の結果、A～C区において縄文時代中期後半の住居址2軒、同時期の屋外埋臺1基、中近世の竪穴状遺構4基、土坑33基、小穴61基の他、遺物も縄文時代中期後半の土器や石器、古墳時代の土師器、中近世の陶磁器・土師質土器・錢貨などが出土した。今回の調査地は1985年度に行われた山梨県教育委員会による笛吹川農業水利事業に伴う調査地の隣接した南側付近であり、特に今回のC区は県調査のA区と同じ畠地内で、そのために県調査と同様な中近世の遺構群が発見でき、また今回のB区によって、これら遺構群の広がりが確認できた。なお県調査時では平安時代の住居址が検出されたが、今回は同時代の遺構・遺物は発見できなかった。

今回の調査成果では中近世の遺構・遺物群が注目される。本遺跡で竪穴状遺構としたものは柱穴などの付属施設は不明で、遺物の出土も少ないので詳細不明である。中世の竪穴状遺構の定義として、長野県佐久市教育委員会発行『大井城跡（黒岩城跡）』調査報告書の中で『浪岡城跡調査報告書VII』の記述を引用し、以下、4点の要素を指摘している。

- ① 方形が基調であること
- ② 柱穴あるいはそれに相当するものの存在
- ③ 覆土、床面出土遺物が中世まで近世までは存在しない
- ④ 基本的に炉・カマドをもたない。また出入口部分は張り出しを用いる。

これに本遺跡の1・3・4号竪穴状遺構を比較してみると、遺構の規模、形状から①は当てはまる。②については柱穴が検出できなかったので、当てはまらない。③については明らかに江戸時代の遺構といえるものは出土しなかったので、ほぼ当てはまる。④については炉・カマドのような火廻をもたないが、張り出しをもつものは見られないので、半分当てはまる。このように当てはまる要素と当てはまらない要素が混在するが、半分以上の要素を満たしているので、これらの範疇に属する遺構として含めてもいいものと考えられる。ただ2号竪穴状遺構としたものは、形状が長方形で掘り込みも浅く、1・3・4号竪穴状遺構とは別の性格をもったものかもしれない。竪穴状遺構の性格として、人が生活した痕跡がなく、通説としていわれている倉庫としての機能を想定したい。

小穴群については、一部に規則的な配列が見られるが、全体的には柵列なのか建物の柱穴なのか明らかにすることことができなかった。

遺物の中で特に目を引くのが、溶融物付着土器である。これは土師質小皿に溶かした銅（もしくはその合金）を入れたもので、溶融物が器面に付着したものである。近辺で簡単な鍛冶が行われていた証となるもので、事実、前回の山梨県の調査で輪の羽口も出土しており、鍛冶集団の存在が窺える。横畠遺跡の性格がどのようなものであったかはわからないが、遺跡の性格の一端がかいま見える遺物である。

横畠遺跡では錢貨が数枚出土しているが、その中で渡来錢が県調査分と合わせて3枚出土

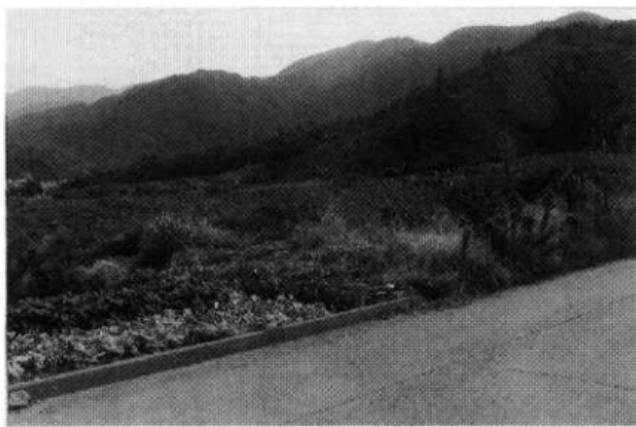
した。県調査地には治平元寶（初鑄1064年）と元祐通寶（初鑄1086年）が出土し、今回の調査では耕作土中から宋通元寶（初鑄960年）が出土した。いずれも北宋錢である。また報告書には図示しなかったが、2枚の寛永通寶が耕作土中から出土した。

遺構内からの遺物の出土量は全体的に少なく、年代を明らかにできるものが少ないので、時期決定がとても困難な状況である。出土した土器・陶磁器は完形品がほとんどなく、また15世紀以降の山梨県内の土師質小皿研究は坂本美夫氏の編年作業以降、出土数が増加したにもかかわらず進んでいない状況がある。山梨県調査の『横畠遺跡・弥二郎遺跡』調査報告書では、遺跡の時期を出土した内耳土器や土師質小皿を岩崎氏館跡や武田氏館跡出土の類例と比較して、16世紀から近世初頭としている。確かに今回の調査で出土した土師質小皿は、15世紀代の岩崎氏館跡で出土した土師質小皿の薄手で、器体部に稜をもつ特徴のものが多く、16世紀代の勝沼氏館跡2～3期や武田氏館跡で出土する土師質小皿の厚手で、稜が見られないという特徴に近い。ただ薄手のものがまったく出土しないというわけでもないので、そのような土器を年代差でとらえてよいのか、工人の違いからくるのかは今後の課題である。また本遺跡では陶磁器の出土量が土師質土器に比べ、少ないことが特徴に挙げられる。これまでに県調査で志野小皿が1点と鉄軸天目片が1点出土し、平成9年度の豊富村教育委員会による試掘調査では、直口縁で内面が丸のみにより菊花状に削がれた美濃灰釉皿が出土した。また今回の調査で、志野皿の底部や図示しなかったが、美濃灰釉碗の底部などが出土した。これまでの調査で出土した陶磁器はこの程度であり、輸入陶磁器は全く出土していないことも指摘しておきたい。

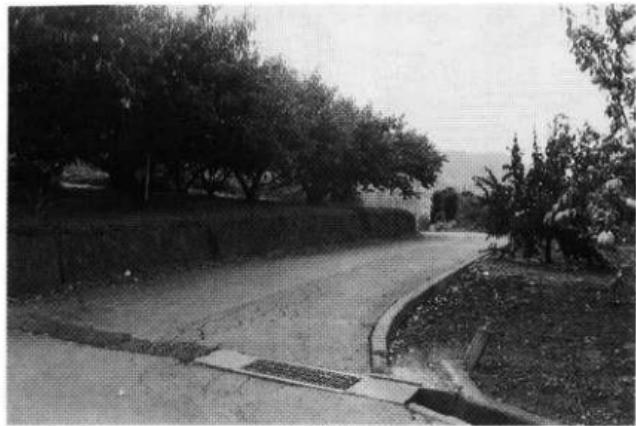
以上、これらのことから遺構群の年代は16世紀代を中心であり、17世紀初頭までには廃絶したものと考えられる。ちょうどこの時期の甲斐国の状況は武田氏支配から徳川氏支配への移行期であり、今回の調査成果はこの時期の豊富村の状況を知る好資料となるものである。

引用・参考文献

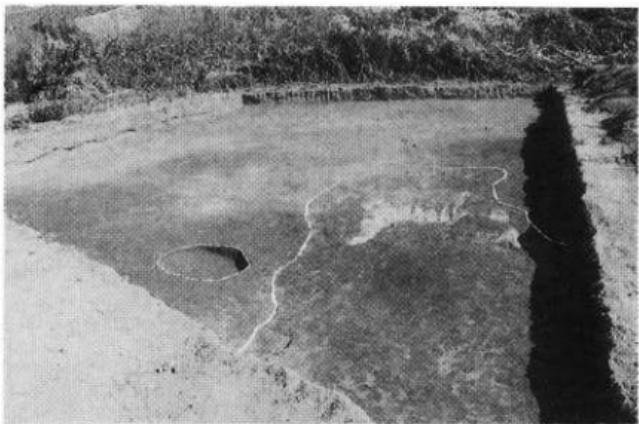
- 森和敏他 1973 『金川曾根地区大規模農道建設及び畠地帯土地総合改良事業関係埋蔵文化財緊急発掘調査概報』 山梨県教育委員会
- 坂本美夫 1983 「山梨県に於ける15世紀以降の土師質土器編年－境川村寺尾出土品を中心にして」『甲斐考古』20-1 山梨県考古学会
- 田口昭二 1983 『美濃焼』 ニュー・サイエンス社
- 波岡町教育委員会 1983 『波岡城跡調査報告書VII』
- 佐久市教育委員会 1986 『大井城跡（黒岩城跡）』
- 保坂康夫 1987 『横畠遺跡・弥二郎遺跡』 山梨県教育委員会
- 岡野秀典 1993 『高部字山平遺跡』 豊富村教育委員会
- 瀬戸市 1993 『瀬戸市史陶磁史篇4』
- 永井久美男編 1994 『中世の出土錢』 兵庫埋蔵錢調査会
- 岡野秀典 1995 『高部字山平遺跡II・浅利氏館跡・三枝氏館跡』 豊富村教育委員会
- 岡野秀典 1997 『平成7・8年度村内遺跡発掘調査報告書』 豊富教育委員会
- 岡野秀典 1997 『遺跡詳細分布調査報告書』 豊富村教育委員会
- 岡野秀典 1998 『平成9年度村内遺跡発掘調査報告書』 豊富村教育委員会



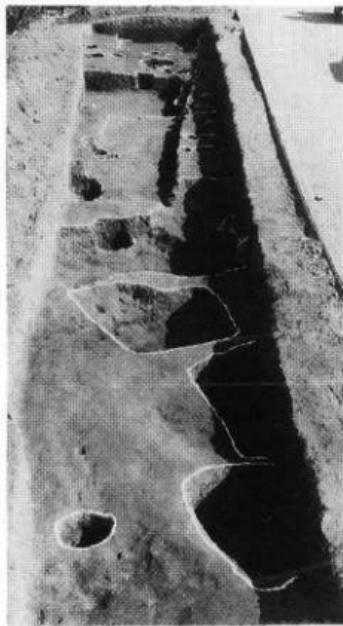
A区調査前風景



B・C区調査前風景



A区全景（西から）



B区全景（東から）



B区全景（西から）



B-15・16付近



1~2号住居址



B-13・14付近



1号堅穴状造構

図版
5



B-12・13付近



4~7号土坑



8~9号土坑



11号土坑



C区全景（東から）



C区作業風景



1号埋甕



2号竪穴状遺構



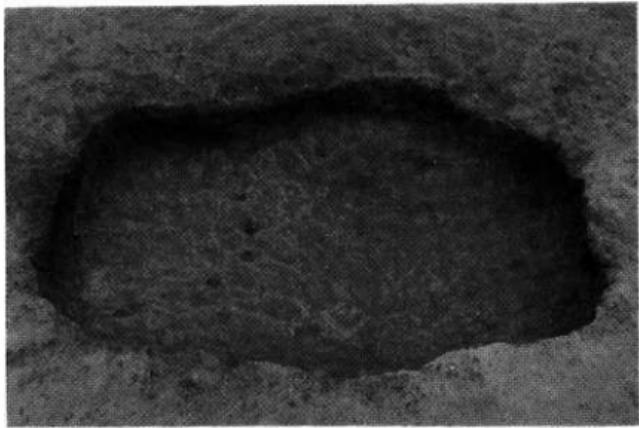
13号土坑



14~17号土坑



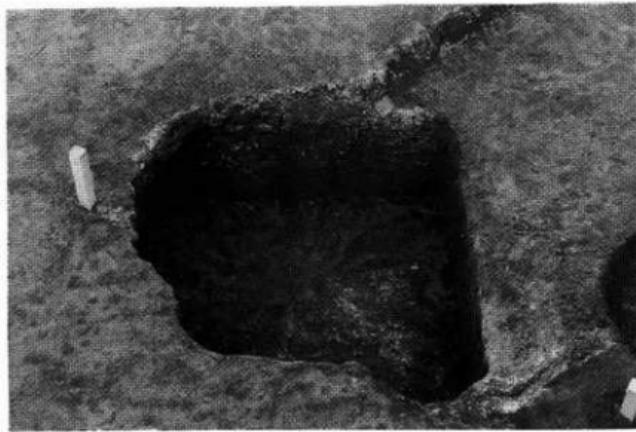
21~26号土坑



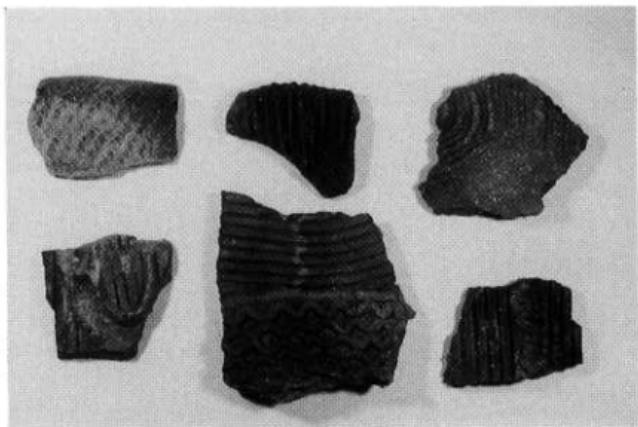
28号土坑



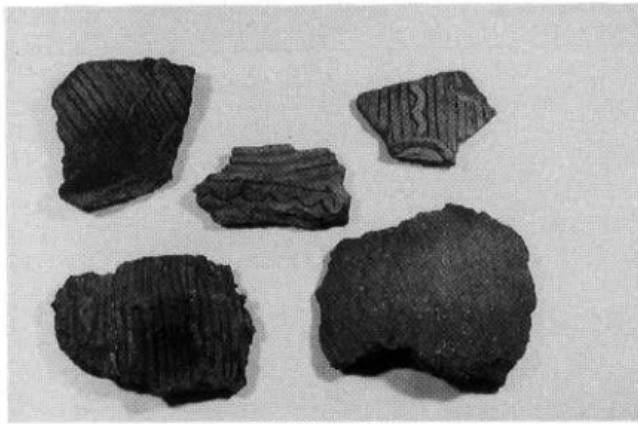
E-10・11付近



28号土坑



1号竪穴状造構出土縄文土器



B区II層出土縄文土器



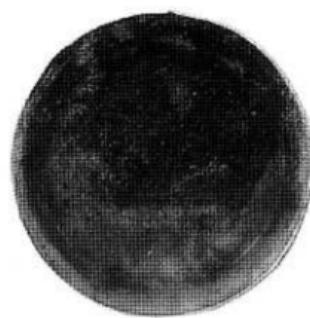
8号土坑出土
擂鉢



3号竪穴状遺構出土
溶融物付着土器



30号土坑出土
脚付土師質皿



C区II層出土
「宋通元寶」



C区II層出土
溶融物付着土器

報告書抄録

ふりがな	よこばたけいせき					
書名	横畠遺跡					
副書名	村道ふるさと農道大鳥居線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書					
シリーズ名	豊富村埋蔵文化財調査報告					
シリーズ番号	第6集					
編著者名	岡野秀典					
編集機関	豊富村・豊富村教育委員会					
所在地	〒400-1594 山梨県東八代郡豊富村大鳥居 3866 TEL 0552-69-2211					
発行年月日	1998年3月31日					
ふりがな 所有遺跡名			コード	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
			市町村 遺跡番号			
横畠遺跡	山梨県東八代郡豊富村 大鳥居 3559-1他		19328 県 21 村 46	1997.10.13 ~ 1997.12.05	465	道路建設
所有遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
横畠遺跡	集落跡	縄文時代中期 中近世	住居址 2軒 屋外埋甕 1基 中近世の 竪穴状遺構 4基 土坑 33基 小穴 61基	縄文時代中期の 土器・石器 土製円盤 中近世の 土師質土器 溶融物付着土器 「宋通元寶」 「寛永通宝」		

豊富村埋蔵文化財調査報告第6集

横 畑 遺 跡

村道ふるさと農道大鳥居線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

発行日 1998年3月31日

発行所 豊富村・豊富村教育委員会

〒400-1594 山梨県東八代郡豊富村大鳥居 3866

TEL 0552-69-2211

印刷所 佛葉袋印刷所

〒400-0043 山梨県甲府市国母二丁目 2-35

TEL 0552-28-0404

